KYOTO INDUSTRIAL ASSOCIATION

京都工業会ニュース

基本理念 −21世紀を担うモノづくり集団−
京都からモノづくりイノベーション

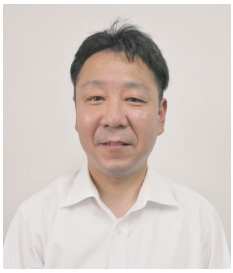
2023 No.415

第55回通常総会及び令和5年度会員企業優秀従業員定例表彰　開催

6月14日、第55回通常総会及び令和5年度優秀従業員定例表彰を開催。事業報告及び決算の承認、役員の選任、常勤理事の年間報酬総額の決定等の議案について審議が行われ、全議案承認されました。

理事会終了後、令和5年度優秀従業員定例表彰を挙行。会員企業から推薦された66氏（52社）が表彰されました。

第55回通常総会を開催 …… 2
副会長 退任・就任ご挨拶 …… 3
「中長期活動の基本方針」の改定 …… 4
令和5年度（第56期）事業計画 …… 5
令和5年度会員企業優秀従業員定例表彰 …… 6



会員企業トップにインタビュー〈33〉タマヤ株式会社 …… 7

「紙わざ多才」、無限の想像力で紙の持つ性質を最大限に引き出す！

第33回目は、タマヤ株式会社（綾部市）を訪問。
コロナ禍で社会が激変していた令和4年2月に、舵取りのバトンを受け取られたタマヤ株式会社の中村 誠 代表取締役社長にお話を伺いました。

◀ 中村誠 代表取締役社長

事業活動報告

白鷺クラブ
令和5年度定期総会（蔦の会と合同開催） …… 8

京都・滋賀・奈良・兵庫
４会若手経営者合同交流会 …… 8

業務革新研究会 …… 9
産業工学（ＩＥ）研究会
流れづくり（ＶＳＭ）研究会

京都高等技術・経営学院
電子システム研究科・メカトロニクス研究科開講 …… 11

京都工業クラブ開催 …… 9
■「中小企業は脱炭素化をどのように進めることができるか ～先進事例紹介を中心に～」
■「外国への技術流出のリスク」
■「新素材開発の動向 ～ナノ技術で世界をリードする新素材をつくり出す～」

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～
マルホ発條工業㈱（その①） …… 10~11

令和4年度会員意見調査によると、『当面の経営課題』として多くの企業が「人材不足への対応」を一番に挙げられました。今年度は、社員の確保と定着に欠かせない要素の一つである“魅力ある職場づくり”をテーマに取り上げ、4回にわたって紹介します。

ゴルフ同好会（ＫＩＧ）だより …… 11
叙勲・褒章の栄 …… 12
新入会員ご紹介 …… 12
訃報 …… 12

第55回通常総会を開催

6/14

6月14日(水)、第55回通常総会および令和5年度優秀従業員定例表彰をホテルオークラ京都にて開催した。

(表彰された方々は、6頁に掲載)

14時30分から総会を開会。村尾修会長が開会挨拶を行った後、議長に選任され、議事に入った。当日の議案は次の通り。

第１号議案：第55期事業報告及び決算の承認の件
〈令和4年4月1日～令和5年3月31日〉
第２号議案：役員の選任の件
第３号議案：常勤の理事の年間報酬総額決定の件

第１号議案ついては、まず本永専務理事が事業報告全般及び収支決算について説明。続いて、総務委員会・太田克己委員長、企画委員会・一居多寿夫委員長、技術・教育委員会・洲崎智之委員長、中堅企業委員会・堀英二郎委員長、中小企業委員会・瀬川晋弘委員長、環境委員会・三ツ松昭彦委員長、安全衛生委員会・島田清孝委員長、広報委員会・榎本晋虎副委員長から各委員会で開催した事業説明が行われた。続いて監事4名を代表して佐藤博文監事から会計監査の報告がなされ、全員異議なく原案通り満場一致で承認された。

第２号議案については、去る5月に開催の第339回理事会で審議された6名を理事会推薦案として提案し、諮ったところ全員異議なく承認された。

第３号議案については、専務理事が常勤理事の年間報酬総額決定について説明し、全員異議なく承認され、全議案の審議を終えた。

続いて報告事項として、第56期事業計画及び収支予算の報告の件〈令和5年4月1日～令和6年3月31日〉について専務理事が説明を行い、これをもって滞りなく総会議事は終了した。引き続いて理事会を開催し、役付理事選定を審議した。

先ず選任方法について諮ったところ議長一任として承認され、議長推薦という方法で、副会長候補者2名、常任理事候補者2名、また理事ではないが、参与2名を提案され、全員異議なく承認された。

挨拶
村尾　修・京都工業会会長

≪新役員≫（役職は総会開催日）

副 会 長　山田義仁（オムロン㈱　代表取締役）
　　松下芳弘（日新電機㈱　社長）
常任理事　桑原千香（大阪ガス㈱　理事 京都地区統括支配人）
　　田中　博（㈱モリタ製作所　社長）
理　　事　奥戸義昌（関西電力送配電㈱　執行役員･京都支社長）
　　河上麻紀（大日本印刷㈱　Lifeデザイン事業部 第2BIセンター長）
参　　与　立石文雄（オムロン㈱　会長）
　　齋藤成雄（日新電機㈱　会長）

総会終了後、令和5年度優秀従業員定例表彰を開催し、引き続いて、懇親会を開催。冒頭、村尾会長が開会挨拶を行い、来賓を代表して文部科学省大臣官房審議官（文化庁京都担当）日向信和氏、近畿経済産業局長 伊吹英明氏、京都府知事 西脇隆俊氏、京都市長 門川大作氏から祝辞をいただいた。

続く来賓紹介の後に、この春に叙勲の栄に輝かれた㈱島津製作所・中本晃相談役（本会顧問）、京都工芸繊維大学・古山正雄元学長、㈱モリタ製作所・森田晴夫会長代理の同社田中博社長に記念品を贈呈した。

さらに当日参加された新入会員の紹介（㈱グリーンテック、司法書士法人ゆずりは後見センター、同志社大学大学院ビジネス研究科）を行い、賑やかな雰囲気の内に錦織副会長の乾杯発声で開宴した。

その後は和やかに歓談し、上田副会長の閉会挨拶で盛況のうちに懇親会を終えた。

祝　辞
日向信和・大臣官房審議官

祝　辞
伊吹英明・近畿経済産業局長

祝　辞
西脇隆俊・京都府知事

祝　辞
門川大作・京都市長

新入会員ご紹介

乾杯
錦織　隆・京都工業会副会長

懇親交流会

閉会挨拶
上田輝久・京都工業会副会長

退任ご挨拶

参与　立石　文雄

オムロンの立石文雄でございます。2013年より京都工業会の副会長を務めさせていただきました。この度の退任に際し、一言御礼とご挨拶を申し上げます。

京都工業会は、1957年創立以来、京都企業の人財育成に取組まれてきました。昨年度は60のセミナーを通じて、延べ9000名を超える京都企業の人財育成に貢献されています。私は京都工業会が果たす役割が、京都企業の成長や活力の源になってきたと強く感じています。近年はAIやIoT、ロボティクスなどの新しい技術が生まれ、私たちの製造現場や生活にも浸透してきています。今後とも、京都工業会が新しい技術を京都企業に伝道していかれることを期待いたします。

これまでの10年間を振り返りますと、最後の3年間はコロナ禍となり、皆さまとなかなかお会いできない月日もありましたが、こうして無事に副会長の役割を終えることができました。京都工業会の会員の皆様から賜ったご高配に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

そして、私の後任として就任いたします山田義仁にも変わらぬご厚誼を賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

末筆になりますが、京都工業会のますますのご発展を祈念いたし、ご挨拶とさせていただきます。

（オムロン㈱　名誉顧問）

退任ご挨拶

参与　齋藤　成雄

去る6月14日に開催されました第55回通常総会をもって、京都工業会の副会長を退任いたしました。2年間にわたりまして、皆様には大変お世話になりましたこと、心より御礼申し上げます。未熟な点や至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様からの親切なサポートを受け、楽しく務めることが出来ました。私にとって、京都での初めての対外的活動を、伝統ある京都工業会で務めることができ、たいへん光栄に思っています。

特に印象的であったのは、ものづくり教育に対する熱意です。教育プログラムの充実していることに感心し、京都高等技術・経営学院の学院長として、電子システム研究科並びにメカトロニクス研究科の合同開講式と修了式で、各社から派遣いただいた研修生の聡明な表情をみて、京都工業会が京都のものづくりの中核であると確信しました。

また、2022年10月の長野県産業視察では、アルプスの山々が一望できる素晴らしい好天に恵まれ、清々しい気持ちで現地の企業を視察し、各社が自らの強みに特化して事業継続を図っておられる姿に、日本のものづくりの底力を感じました。

ものづくりに携わってきた者として、京都工業会で活動できたことは、大変有意義でありました。ありがとうございました。今後の京都工業会の益々のご発展と、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

（日新電機㈱　取締役）

就任ご挨拶

副会長　山田　義仁

この度、第55回通常総会（6月14日開催）において、立石文雄の後任として京都工業会の副会長に就任いたしました山田義仁です。

京都は、その豊かな歴史と文化によって知られる街であると同時に、数々のイノベーションが生まれている地でもあり、その発展に大きく貢献してきたのが京都工業会です。京都工業会は常に技術革新とイノベーションを追求し、京都の産業界の活性化と発展に大きく貢献してきました。このような歴史と伝統ある京都工業会の副会長を務めさせていただくことを大変光栄に感じると同時に、責任の重さに身が引き締まる思いです。

近年の技術革新のスピードは、AIの進化などにより加速度的に速くなっています。また、サステナビリティへの意識の高まりなどにより、人々の価値観も大きく変化しています。このような時代の中で、村尾会長をはじめ、役員の皆様と協力し、京都工業会および京都の経済・産業のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

今後も会員の皆様方には、京都工業会への一層のご協力とご支援、そしてご指導を賜りますようお願い申し上げます。

（オムロン㈱　会長）

就任ご挨拶

副会長　松下　芳弘

伝統ある京都工業会の副会長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。

京都には伝統の上に知恵を重ねて革新を進めてきた老舗企業があり、独創的な技術を有する先取気鋭の先進企業もあり、また産学官の連携による新事業育成もあり、強固な産業界が形成されています。このように個性ある企業間の交流、豊富なカリキュラムによる人材育成、相互研鑽において、京都工業会の役割は大きいものがあります。その京都工業会の副会長に就任することは、身が引き締まる思いです。

コロナ禍は感染法上の分類が5類に変更になり、世の中、社会がアフターコロナに大きく移行しているように感じていますが、米中対立、ウクライナ問題、気候変動、自然災害など、いろいろな問題が起き、世界情勢は混とんとしています。さらにエネルギー・原材料価格高騰、部材の調達難などへのリスク対応も求められており、事業環境の不透明性は一層増してきています。一方、DX、GXをはじめ新たなビジネスチャンスがあります。

「あらゆることに果敢に挑戦(Challenge)して、変化(Change)を創り、チャンス(Chance)をつかみ、納得するまでやり抜く(Continue)」の"4C"の精神で取り組む所存です。

（日新電機㈱　社長）

「中長期活動の基本方針」の改定

2023年6月改定版

2003年に制定し、2008年に一部改定した本会「中長期活動の基本方針」をこの度、大幅に改定しましたので、お知らせします。

基本理念

―21世紀を担うモノづくり集団―
京都から　モノづくりイノベーション

モノづくりにとって永遠のテーマである技術の向上と、グローバル・コンペティションの時代を先取りできる製造業の振興を図るため、有為な事業と高品質な情報提供に加え、具体的な成果を実感でき、その成果を実践に存分に生かせる、モノづくり集団ならではの多様な活動を展開していく。

こうした取組を通じて、多くの歴史的・文化的遺産に恵まれた京都から、未来に向けイノベーションを引き起こせる変革のリーダー育成、モノづくりを支える技術者の養成、会員企業の経営力向上、モノづくりと関わって社会課題の解決を図ろうとするスタートアップの創出や協働を支援することで、しなやかでたくましい京都産業界のサステナブルな活性化に貢献していく。

活動方針

1．会員企業の成長と発展を通して、京都産業の振興をめざす。

京都の「モノづくり」を取り巻くハード・ソフト両面の環境や条件が、これまでになく国内外で大きく、かつ加速度的に進展している。

こうした新たな舞台に立って、京都工業会は常に会員ニーズに則し、最新の技術動向にも着目し、特に中堅・中小企業に寄与できる人材育成教育を一層充実強化していくという強い使命感の下で、モノづくりに携わる人材を育て、京都産業界ひいては京都のより一層の振興と発展に尽力する。

（工業会としてどうありたいか）

2．真に必要とされるニーズに応える実践的事業を展開し、会員の企業活動そのものが地域振興や街づくりにまで発展していけるような支援組織をめざす。

会員相互の緊密なコミュニケーションの醸成と人的ネットワークの構築を基本とし、グローバルな見聞・研鑽・連携・交流・親睦などの実践的事業をこれまでに培われた委員会活動の活性化を通じて実施することでビジネスの新展開を促進する。

京都工業会でのセミナーや講座を契機として、社会的認証を受けたり、世間の動向を幅広く学ぶ機会を通じて、会員満足度を高めるとともに、会員の企業活動が、地域振興や街づくりに繋がっていくことを支援できる存在感ある組織をめざす。

（会員企業にとってどうありたいか）

3．幅広い人脈やネットワークを活かし、困難な課題にチャレンジし持続可能な社会の形成を支える支援機関としての地位確立をめざす。

会員企業をはじめとする多様なモノづくり企業、大学や関係機関など、京都工業会ならではの強みである人的・組織的ネットワークも活用し、モノづくりイノベーション、サプライチェーンも含めたカーボンニュートラル・脱炭素、サステナブルなモノづくり人材の確保、スタートアップの支援など、個々の会員企業だけでは解決が困難な課題にも果敢にチャレンジし、持続可能社会の形成を支える支援機関としての地位確立をめざす。

（関係機関の中にあってどうありたいか）

方針全体を俯瞰する重要な視点

1．TNFDをはじめとする経営を取り巻く「環境」を一層重視していくこと

（TNFD、TCFD、RE100、3R、SDGs、ESG投　資、脱炭素、GX、環境経営）

2．働きやすい職場づくりとDX等を活用した労働生産性向上を図ること

（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DE＆I)の推進、働き方改革、健康経営、労働力不足、人材確保、各種ハラスメント、Z世代）

3．国境を超えるパンデミックを始めとする各種の有事に対する高い対応力を備えること

（感染症対策、サイバーセキュリティ、地政学的リスク、経済安全保障）

令和５年度（第56期） 事業計画

令和5年4月1日～令和6年3月31日

【本年度の重要テーマ】

次の3点を本年度の重要テーマと位置付けて事業全体を展開する。

1．リスキリングを軸とした人材の育成

リスキリングを通じたDX、IoTの活用などにより、労働生産性の向上、働き方改革などにつながる人材育成。

2．脱炭素・カーボンニュートラルの取組の強化

サプライチェーン全体を見据えた環境への取組を強化。

3．イノベーションの創出につながるネットワークづくりの強化

災害などのリスク対応や従来にない創造的活動などに関わる人・モノ・情報をこれまで以上に的確につなげる取組を強化

★ 新規事業　◆ 一部新規　★ 重点事業

1　会の組織強化と会員相互の交流促進

1）総会、理事会、正副会長会議等の開催 ……随時
2）委員会活動の推進 ……随時
◆3）広報・会員サービス活動の実施 ……随時
4）会員の拡大 ……年間
5）蔦の会､白鷺クラブ､ゴルフ同好会(KIG)の運営 ……随時
6）京都工業クラブの開催 …… 12回/年
7）新春交歓会の開催 ……定例
8）ホームページ掲示板機能による情報交換 ……随時
9）オンライン研修等の活用促進 ……随時
10）Web登録機能を活用した各種事業への参画促進 ……随時

2　経営・業務革新の促進と人材育成

経営課題解決シリーズ　1）～2）

1）大会･フォーラム･セミナー･養成講座･視察･見学会等
ア.第26回　京都KAIZEN大会の開催 ……1回/年
イ.第17回　京都TQMフォーラムの開催 ……1回/年
ウ.購買管理特別講演会の開催 ……1回/年
エ.経営革新セミナーの実施 ……2回/年
オ.ISO9001･ISO14001内部監査員養成講座の開催… 5～6回/年
カ.他府県産業視察の実施 ……1回/年
キ.生産革新工場見学会の開催 ……4回/年
★ク.海外生産革新工場 研究会の開催 ……2回/年
ケ.2023年版ものづくり白書説明会 ……1回/年
コ.課題対応型セミナーの開催
★・エンジニアで無くても解る「モノづくり超基本」勉強会 ……4回/年
★・産学連携によるイノベーション推進セミナー…1回/年
◆・脱炭素(カーボンニュートラル)に向けた取組支援セミナー……1回/年
★・ロボット導入・運用支援 見学会 ……1回/年
★・デジタル･トランスフォーメーション(DX)講座…4回/年
◆・サイバーセキュリティ対策セミナー……1回/年
★・ブロックチェーンセミナー……1回/年
★・ものづくりにおけるデータ活用セミナー……1回/年
★・マテリアルズ・インフォマティクス（素材開発の効率化技術）セミナー ……1回/年
・モノづくりモチベーションアップセミナー……1回/年
・業務改善のためのアイデア発想講座……4回/年
★・外国人材マネジメントセミナー……3回/年

2）経営管理懇話会の開催（管理者対象）
①経営企画戦略会議21……7回/年
②Ｒ＆Ｄ問題懇話会……6回/年
③購買・資材問題懇話会……6回/年
④生産問題懇話会……6回/年
⑤品質保証懇話会……6回/年
⑥人事労務問題懇話会……6回/年
⑦労働安全衛生研究懇話会……7回/年
⑧女性活躍推進懇話会……4回/年
⑨経理問題懇話会……6回/年
⑩監査部門懇話会……6回/年

リスキルシリーズ　3）～5）

3）業務革新研究会の開催（若手社員～中堅実務者対象）
◆①開発設計革新（ＶＥ）研究会…… 10回/年
◆②流れづくり（ＶＳＭ）研究会…… 10回/年
◆③購買調達革新研究会…… 10回/年
◆④生産管理（ＴＯＣ）研究会…… 10回/年
◆⑤品質革新研究会…… 10回/年
◆⑥産業工学（ＩＥ）研究会…… 10回/年
◆⑦生産保全研究会…… 10回/年
◆⑧生産現場リーダー力強化研究会…… 10回/年
⑨良いモノづくりをする女性のための研究会……4回/年

4）特定分野研究会等の開催（若手～経営幹部対象）
①新入社員等若手社員を対象とする「モノづくりベーシック講座」……4回/年
②知的財産権研究会……9回/年
◆③テクノロジー＆マネジメント研究会…… 14回/年
◆④情報通信研究会……7回/年
⑤IoT研究会 ……5回/年
⑥AI研究会 ……5回/年

5）京都高等技術・経営学院の運営（若手技術者対象）
ア.研究科 …… 6～2月 1回/週
・電子システム研究科
・メカトロニクス研究科
} 各研究科延べ70回
イ.本科
＜技術課程＞
・機械設計コース…… 17回/年
・機械製図コース…… 5回×2クール/年
・機械加工技術コース……4回/年
・特定分野コース（特に最近開催ニーズの高い４つの講座を実施）
①材料技術講座……4回/年
★②ライフサイエンス講座……4回/年
★③ケミカル講座……4回/年
◆④DX推進人材育成講座 …… (1) 3回/年、(2) 4回/年
(1)ニューラルネットワーク実機編2
(2)ソフトウェアツール編
＜管理課程＞
・コストダウンコース……5回/年
・FMEA・FTAコース ……5回/年

3　オープンイノベーション推進による新産業・新事業創出

★1）モノづくりイノベーションネットワークの実用化促進…随時
◆2）「モノづくりフォーラム2024」の開催……1回/年
★3）産学連携によるイノベーション推進セミナー(再掲)…1回/年
★4）京都知恵産業創造の森との連携 ……年間

4　経営グローバル化の推進

1）海外産業視察団の派遣 ……1回/年
2）海外ビジネスセミナーの共同開催 ……1回/年
3）ジェトロ京都貿易投資情報センターとの連携 ……随時
4）海外経済団体との交流 ……随時
★5）海外生産革新工場 研究会　開催（再掲） ……2回/年

5　中堅・中小企業の振興

◆1）中小企業技術幹部交流会の開催 ……5回/年
2）中小企業見学会の開催 ……4回/年
3）生産革新工場見学会の開催(再掲) ……4回/年

6　地球環境の保全と環境経営の推進

◆1）京都環境管理研究会の開催 ……7回/年
◆2）脱炭素(カーボンニュートラル)に向けた取組支援セミナー（再掲）……1回/年
3）環境マネジメントシステム(ISO14001及びKES)の推進…年間
◆4）環境関連課題の動向調査と研究 ……年間
5）環境関連３団体、その他外部団体との協働 ……年間
6）第47回 関西環境管理者交流会……1回/年

7　労働安全衛生の推進

★1）安全衛生関連セミナーの開催 ……1回/年
2）労働安全衛生研究懇話会の開催（再掲）……7回/年

8　地域産業の活性化

1）国・京都府・京都市等関係行政機関との連携 ……随時
◆2）京都経済団体協議会との協調 ……随時
3）府内・外関係経済団体との協調 ……随時
4）京都知恵産業創造の森との連携（再掲）……随時
5）環境関連３団体との協調（再掲）……随時
6）青少年と科学の会への支援及び京のエジソンプログラムの推進 ……随時
7）北部地域産業界との連携 ……随時
8）要望活動 ……随時

9　京都工業会館跡地の有効活用

令和５年度　会員企業優秀従業員定例表彰

6/14

～66氏を表彰～

6月14日(水)通常総会終了後、16時30分から令和5年度優秀従業員定例表彰を挙行。

まず、村尾　修会長が式辞を述べ、その後、受賞者全員の名前を読み上げ、受賞者66氏(52社)を代表して、山　伸子氏(富士高分子㈱)へ村尾会長から表彰状と記念品が授与された。

続いて、来賓の京都府商工労働観光部長　上林秀行氏、京都市産業・文化融合戦略監 兼 産業観光局長　石田洋也氏から祝辞をいただいた後、受賞者代表として西岡和行氏(㈱最上インクス）が謝辞を述べた。

その後、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。

〈受賞者名〉（以下敬称略）

朝日レントゲン工業㈱　矢尾正美	島津システムソリューションズ㈱　小林正樹	㈱日進製作所　吉岡宏樹
㈱イシダ　森下　淳	㈱島津製作所　今田武司	日新電機㈱　篠原雅英
㈱イセトー　齋藤喜彦	㈱島津製作所　平井敏明	日新電機㈱　西久保憲一
㈱イセトー　森　康二	島津トラステック㈱　小松由直	㈱パックス・サワダ　村田哲三
一志㈱　下村　毅	島津トラステック㈱　西出　学	福田金属箔粉工業㈱　中田　暁
尾池工業㈱　山口善隆	島津プレシジョンテクノロジー㈱　吹金原尚美	富士高分子㈱　山　伸子
大阪ガスマーケティング㈱　平峯進一	㈱SCREENホールディングス　荒木浩之	㈱平安製作所　福井　隆
Daigasエナジー㈱　東　圭一	㈱SCREENホールディングス　坂本道昭	㈱堀場製作所　水谷　浩
㈱カシフジ　中島雅美	須河車体㈱　谷本誠二	三菱自動車工業㈱京都製作所　井上　敏
㈱片岡製作所　川本一喜	菅原精機㈱　今村雅哉	三菱自動車工業㈱京都製作所　中村直之
㈱菊水製作所　早川比登美	星和電機㈱　吉島裕登	三菱ロジスネクスト㈱　松山輝雄
京都機械工具㈱　大間一八	㈱たけびし　大久保啓	三菱ロジスネクスト㈱　水口秀一
クロイ電機㈱　井浪博行	太陽機械工業㈱　蘆田昌史	㈱宮木電機製作所　塩見和明
月桂冠㈱　兼森　清	㈱大日本科研　西出郁夫	村田機械㈱　笹井隆博
㈱工進　近藤博典	トクデン㈱　辻　久人	村田機械㈱　林佳代子
サンコール㈱　國府明弘	㈱トミナガ　神田光明	メテック㈱　吉田　真
サンコール㈱　藤井浩之	TOWA㈱　白澤賢典	明光精器㈱　伊藤雅康
㈱最上インクス　西岡和行	TOWA㈱　八木貴義	㈱モリタ製作所　笠原　力
㈱佐藤製作所　梶谷雅也	㈱藤堂製作所　橋本夕美	㈱モリタ製作所　寺尾はるみ
三和化工㈱　吉田　満	ニチコン㈱　柏山智彦	㈱ユーシン精機　川北明人
㈱ジーエス・ユアサコーポレーション　田中正温	ニチコン亀岡㈱　林　重彦	㈱ユーシン精機　児玉博明
㈱ジーエス・ユアサコーポレーション　渡邊鉄男	㈱日進製作所　堀井徳美	㈱洛北義肢　大西　豪

■会員企業トップにインタビュー〈33〉

「紙わざ多才」、無限の想像力で紙の持つ性質を最大限に引き出す!

タマヤ株式会社　プロフィール
創　業：1949年　　法人化: 1971年
資本金：5,000万円　　社　員：75人
住　所：綾部市青野町下入ケ口12
業　種：紙器製造加工販売、ラベル製造加工販売

タマヤ株式会社

代表取締役社長　中村　誠氏

コロナ禍で社会が激変している最中であった令和4年2月に、熊内前社長から手腕を期待され舵取りのバトンを受けられた、タマヤ株式会社の中村 誠 代表取締役社長にお話を伺いました。

―貴社の概要について教えてください。

1949年に紙器工業所として創業しました。その後、1971年にタマヤ株式会社を設立して今に至るのですが、創業時から一貫して紙を使った加工品を作ってきました。

当初は白いままの紙を打ち抜いて箱にした包装資材だけでしたが、時代の変化に合わせて設備を導入し、また付加価値を付けるために印刷やダンボール加工などにも事業を広げ、現在は印刷紙器やラベルシールなど、紙器・包装資材全般を製造しています。

―強み、特徴について

取引先からの紙加工に係る難しい要請に応える努力を続けてきたことで、品質や技術のレベルが高いと自負しています。月1回、営業部門と製造部門から課長や係長、担当者7、8名が集まって企画会議を開催し、顧客のお困りごとや製品開発のための課題を共有し、様々な視点から検討を行っています。そして方向性を決めるときには社長も含めた協議をして進めています。

当社は、企画から製造、納品まで、本社工場で一貫製造体制を整えているので、短納期の希望にもお応えできることも強みだと思います。

―今、特に力を入れていること

この3年ほど、コロナ禍で社員同士の コミュニケーションが不足してしまったことで、伝えたいことが上手く伝わらず、社内でのクレームが増えてしまいました。クレーム件数が増えていく中で、コミュニケーションの必要性を痛感しました。

以前のようなコミュニケーションを取り戻すのはまだ難しいですが、何らかの変化を出していきたいと思っています。例えば朝礼で、コロナ禍以降“おはようございます”の挨拶もなかったのですが、今はマスクをしていても構わないので全員が声を出して挨拶することにしました。

―取引先の開拓について

取引経験のない業種、業界だと、使われる紙器も違ってくることが結構あります。食品業界でいうと、例えば弁当の紙器の内側をビニール等で加工し、食べ終わった後に内側のビニールを簡単に外せて分別して捨てられるようにするとか、様々なアイデアを出してニーズに対応しています。他業界に飛び込んでいく上では、展示会で自社製品を並べて説明し、バイヤーと意見交換していくことが有効で開拓につながりました。東京や大阪で開催される展示会へは積極的に出ています。展示会に飲食店や飲食メーカーさんが来ていて、当社製品がたまたま目について、“こういうものを入れるので箱を試作してくれないか”という相談に対し、当社がご提案して採用されていく形もあります。

タマヤ株式会社　本社屋

―業界の動向と見通し

コロナ禍で厳しい状況もありましたが、多様な業種の企業と取引をしていたおかげで乗り切れました。土産物の紙器需要は減ったものの弁当の紙器需要が伸びるなど、取引先との売上比率が変わっただけで、業績が大きく落ち込むことはなかったです。

一番影響があったのは材料費です。製品の材料である紙の供給が滞ることはなかったですが仕入れ価格が値上がりし、またエネルギー価格など製品に係る全ての費用が値上がったため、地道なコストダウンでは吸収しきれず、当社でも昨年、2回にわたり材料仕入価格の高騰分だけは値上げをさせてもらいました。

コストダウンの取組は絶えず行ってきたので、新たなコスト低減の展開は難しいですが、今は経費の約40%を占める材料費に目を付けており、この比率を下げていければと考えています。他の経費はあまり落とせないのですが、原材料である紙は、製造時のロスや顧客からのクレームによる再作製が無くなることで材料の再投入を無くすための改善に取り組んでいます。材料の再投入は何十年も前から疑うことなく行ってきたのですが、コロナ禍をきっかけにしっかり見直すことにしました。

―今後の抱負

当社の社章は、小さい円は社員一同のファイトを象徴し、これが核となって大きな焔になり、繁栄の輪を大きく広げていこうという願いを表しています。この由来通り、お客様に喜ばれる個性ある高品質な製品を提供することやエコ製品の開発販売などに取り組み、しっかりと利益を確保して皆さんに分配できるよう、従業員が一丸となって輪を広げていこうと思います。

タマヤ株式会社 社章

白鷺クラブ活動報告

●令和5年度定期総会（蔦の会と合同開催）

4月6日(木)夕刻に、白鷺クラブの令和5年度・定期総会を「蔦の会」と合同で開催し、31名が出席した。

冒頭、新規加入会員を紹介し島田代表幹事が開会挨拶を行った後、令和４年度の活動報告、令和5年度の役員の選任、そして本年度の事業計画について活発な討議を行い、全ての案件について満場一致で承認された。

今年度の国内視察は、11月16日･17日に大分県を訪問、また、本会首脳との懇談や滋賀県の若手経営者で構成されている「あさって塾」との相互の交流訪問などが計画されている。

＜令和5年度役員＞

代表幹事：岡本　浩志 君　（大日本科研･社長）

代表幹事：山本　光 君　（平安･専務）

幹　事：島田　理史 君（菊水製作所・社長）
〃　：中本　宏樹 君（福知山重工業・社長）
〃　：山岡　靖尚 君（山岡製作所・社長）

●第19回 京都・滋賀・奈良・兵庫 ４会若手経営者合同交流会

6月23日（金）～24日（土）

本会の白鷺クラブ、あさって塾（滋賀経済産業協会）、ECOM（奈良経済産業協会）、くすのき会（兵庫工業会）の4会合同交流会を今年は白鷺クラブがホスト役を務め京都で開催され、57名が参加した。

受入人数の制限から本会を除く3会のメンバーで、日本の伝統技能の粋を集めた最高のおもてなしの場である京都迎賓館を訪れ内部を見学。数寄屋大工、左官、作庭、截金（きりかね）、西陣織や蒔絵（まきえ）、漆など、数多くの京都を代表する伝統技能をふんだんに取入れた建物や調度品を参観した。

続いて京都経済センターに会場を移し白鷺クラブと合流。白鷺クラブ岡本代表幹事の開会挨拶の後、本会副会長　ニチコン株式会社　武田一平会長を講師に「当社の取り組み　～スマートでクリーンな明るい未来社会を目指して～」と題し講演いただいた。

講演は､最初にTV番組「賢者の選択」のビデオにより、武田会長の入社当時の面接でのエピソードや、単身渡米しシカゴを拠点にアタッシュケースに製品を詰め込みアメリカ48州を廻わり顧客開拓をされた体験等を拝聴した。続いて、同社の概要とAI自動制御により、蓄電とEVをつなぐシステムで家庭と企業・街の隅々にまで暮らしの安心ソリューションの提供について解説いただいた。

（講師：武田副会長）

◆武田会長が経営者として大切にしている事
①学びの姿勢を絶えず持っていること（自分自身の成長、会社の成長）
②人脈

◆社会人としての大切な基礎力
①前に踏み出す力　②考え抜く力　③チームで働く力　④凡事徹底（易しいようで一番難しい、これが出来る会社が非凡な会社）⑤ルールを守る⑥コミュニケーション力

◆会社として大切な事
①持続的成長
②利益だけでなく社会への貢献（変化の中で必須）
③あらゆるステークホルダーの期待に応える（お客様に価値を提供、モノづくりからコトづくり）

武田会長のパワーの源は、入社当時からの卓越した行動力の積み重ねによるものであることが分かり、若い経営者の心に深く響く講演であった。

講演終了後は、京都の奥座敷・貴船に移動し、４年ぶりの交流で大いに盛り上がり、来年度は滋賀での再会を約し閉会となった。

翌24日は瀬田ゴルフコースに会場を移し19名が参加、暑すぎずに絶好のゴルフ日和の中、熱戦が繰り広げられ、成績は白鷺クラブメンバーの(株)MIRAIの森本元気氏が優勝、7位～9位を京都勢が占めた。

（瀬田ゴルフコースにて）

第672回　京都工業クラブ　4/14

「中小企業は脱炭素化をどのように進めることができるか　～先進事例紹介を中心に～」

経済産業省近畿経済産業局
カーボンニュートラル推進室 室長　織田　貴士氏

カーボンニュートラル(CN)とは「温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（排出量から吸収量を差し引いた合計がゼロ）」ことで、世界のCNの動きや2050年CN実現に向けた我が国の状況・取組、グリーン成長戦略やGX（グリーントランスフォーメーション）支援策等を解説された。企業経営では、中小企業も含めたサプライチェーン全体での取組が必要で、中堅・中小企業に向けて取組段階に応じた支援を行うとともに支援機関の人材育成・体制強化等「プッシュ型」の働きかけ、グリーン製品市場の創出等の施策で後押ししていくとのことで、具体的な支援策や取組事例も紹介された。

第673回　京都工業クラブ　5/23

「外国への技術流出のリスク」

京都府警察本部　警備部　外事課　京都府警部
長岡　弘朗氏　他

近年、①中国の台頭を背景に、②産業基盤のデジタル化、③軍民技術の融合、④新戦域(宇宙・サイバー・電磁波)の誕生、⑤サプライチェーンリスクの顕在化により、安全保障が経済・技術分野に拡大しつつある。警察は、技術流出事案の実態解明と違法行為の取締りを担うと共に、重要な技術情報の流出を未然に防止するため、企業・アカデミアに対し、流出実態や対策ノウハウについての情報提供活動を推進しており、京都府警における産業界を守る情報保全ネットワーク「モノづくり・プリザーブ」の紹介や実際の手口の解説、メールによる乗っ取りのデモンストレーション等が行われた。

第674回　京都工業クラブ　6/20

「新素材開発の動向 ～ナノ技術で世界をリードする新素材をつくり出す～」

京都大学　大学院理学研究科　化学専攻　教授　北川　宏氏

合金で、原子レベルで混ざっているものを「固溶」と言うが、金属元素の7割以上は混ざらない組み合わせだった。原子番号46パラジウムは45のロジウムと47の銀を足して割れば作れるのでは、という発想から、金属元素を「イオン」の状態にして水溶液を作り、熱した有機溶媒に入れるという方法を開発。原子レベルで混ざりあう固溶ナノ合金をつくった。貴金属8元素（ﾙﾃﾆｳﾑ、ﾛｼﾞｳﾑ、ﾊﾟﾗｼﾞｳﾑ、ｵｽﾐｳﾑ、ｲﾘｼﾞｳﾑ、白金と金、銀）全てを固溶させることに世界で初成功。一般に金と銀は触媒にならないので産業では役に立たなかったが、合金に含まれると触媒としての性能はよくなった。このような意外性が楽しく、大きな可能性を秘めている、と述べられた。

◆ 業務革新研究会 ◆

本会の基幹事業の1つである業務革新研究会（8研究会）は、5月9日(火)から研究会ごとに順次活動を開始した。

各研究会の初回は午前から開催し、はじめに、研究会活動の説明を行い、その後、自己紹介、研究会活動の年度方針（スローガン）の検討、前期カリキュラム（5月～9月）の検討を行った。午後は、アドバイザーの基調講演とそれに基づく活発な討議等が行われた。

以下、主な活動概要を紹介する。

[産業工学(IE)研究会]

初回例会では、アドバイザー吉植久正氏（NPSソリューション 代表）から「IEの基本的な考え方」と題してIEの役割や目的、IoTとAIなどについて基調講演をいただいた。

また、改善対象を明確化する手法の1つとしてPQ分析の説明があり、PQ分析作成の演習を行った。

[講演内容]（5月9日開催・抜粋）

◇PQ分析の進め方
- ①製品の製造量と販売量に基づいて一覧表を作成する
- ②一覧表のデータを大きさの順に並び替える
- ③グラフ用紙を用いて、横軸には製品名、縦軸には数量、重量及び金額などを記入する
- ④棒グラフを作図し、表題、期間、データの種類、作成者などの必要事項を記入する
- ⑤主力製品の摘出を行う

[流れづくり(VSM)研究会]

6月例会では、アドバイザー香川博昭氏（香川改善オフィス　代表）から5月例会の振り返りとして「7つのムダ」のおさらいを行っていただいた。その後、チームに分かれて模擬ラインを作り、標準作業組合せ表やビデオ分析を活用して、ムダ取りの演習を行った。

[演習内容]（6月22日開催・抜粋）

◇ビデオ分析
- ○現場の稼働の現状を掴む
  - ①現状把握（ビデオ撮影）
  - ②作業（ムダ、ロス）分析、運搬、動作、手待ち、切換え、故障など
  - ③見える化（グラフ化）
- ○作業分析シート
  - ①要素作業に分割して作業時間を測定する
  - ②要素作業を付加価値作業か否かに仕分ける
  - ③結果をパレート図やグラフにまとめて改善課題を明確にする

シリーズ　魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その①

本年度は、人材の確保や定着に欠かせない要素の一つであり生産性向上などの効果も期待できる職場の魅力向上に努めておられる会員の状況を、４回にわたってご紹介します。
今回はマルホ発條工業株式会社から、総務グループがある亀岡工場を訪問しお話を伺いました。

マルホ発條工業株式会社

創　業：1954年　資本金：9,360万円　社　員：532人（海外連結）
住　所：京都市下京区中堂寺南町134　KRP １号館

お話を伺った皆様

常務取締役（管理管掌）　谷村　哲郎 氏
総務グループ人事チーム　チームマネージャー　岡本　直久 氏
総務グループ総務チーム　チームマネージャー　成田統貴子 氏
医療機器部品事業部生産グループ　生産チーム　西村由香里 氏

左から　谷村氏　岡本氏　西村氏　成田氏

事業概要

岡本マネージャー　京都には世界に羽ばたいているユニークな企業が多いので、当社もそうした企業を目指し、技術創造型企業を標榜して３つの事業への挑戦を続けています。

①バネ事業　バネは身の回りの様々なところで使われています。精密小物バネ市場では西日本でトップシェアを持っています。例えば、シャワーの温度調節部分には形状記憶合金で作ったバネとバイアスバネが入っています。形状記憶合金バネは温度変化で「荷重特性」が変わることで水とお湯の流入量を制御して出す仕組みです。日本の家庭で使われている水温制御バルブの６～７割で当社のバネが使われております。

②医療機器部品事業　バネの微細加工技術を突き詰めていった結果参入した事業で、キーデバイスと呼ばれる部品を作っています。例えば、冠動脈など血管の中を検査するカテーテルで使うコイル状のデバイスを、バネに関連した技術で製造しています。また、脳動脈瘤を治療する塞栓コイルを製造しています。

③機械事業　主に医薬品を包装する機械であるブリスターマシンを製造しています。その技術を応用してお菓子や歯ブラシなど色々なものを包装する機械も作っています。

★特徴　全てオーダーメイド製品です。事業ごとに異なる顧客層があり、自動車関係をはじめ、医療、家電、情報通信、家庭機器など様々な業界にわたっています。

勤務体制について

谷村常務取締役　時短勤務や時差出勤、1時間単位の有給休暇、在宅勤務を早々に導入するなど、世間で現在議論されている制度は兼業制度を除き概ね整っていると思います。

製造現場ではシフトを組むのがかなり難しい状況もありますが、何らかの事情で出社が厳しい場合、例えば日々は忙しくて手が付けられていないマニュアルや作業指図書のメンテナンスを在宅勤務で集中して行うなど、可能な範囲で在宅勤務を取り入れてもらっています。

時短勤務は育児休暇明けの人がよく使っています。育児休暇は男性社員も取っており、最初の頃は1～３日程度でしたが、今では１カ月を超える期間を取得する人も出てくるなど、男性の育休取得率は100％になりました。奥さんにとって出産直後や職場復帰の時期は特に大変なので、出産し自宅に戻った後は夫婦が協力して子育てをするため、復帰前は奥さんを育児から解放して復職準備を進めてもらうため、厚労省のガイドラインを参考に男性社員に育児休暇の取得パターンを紹介しています。

正社員への転換制度

谷村常務取締役　当社には正社員への転換制度があり、パート社員や派遣社員だけでなく障害者の方も、3年間働いてもらって、会社への貢献意欲があって正社員を希望する人には面接をして、受かれば正社員に転換しています。以前は正社員に転換するハードルが高く、転換した方は少なかったのですが、2016年からはモノづくりに対する真摯な姿勢とやる気があれば正社員に転換しましょうという方針にしました。

成田マネージャー　私は2007年、当社に派遣社員として入社し、その半年後に行われた正社員への雇用転換試験を受けて正社員に採用されました。

岡本マネージャー　西村さんもパート社員で入社して、3年働いた後の2016年に雇用転換試験を受けて正社員へ転換されました。

西村さん　この正社員への転換制度というのはすごく大きい制度だと思います。私もそうですが、この制度があって実際に転換が毎年のようにされていることで、パート社員のモチベーションが上がっていると感じます。

女性活躍推進について

成田マネージャー　当社では女性活躍推進タスクチームを設置しており、私は昨年度からリーダーを務めています。チームの目的は、男女間の業務の隔たりをなくし、会社全体の生産性を高めることです。ゴールは、定量的には2024年に女性のマネージャー比率10％、定性的には男女関係なく役割や役職、業務を分担して取り組むことを当たり前にすることと、アンコンシャスバイアスを無くして女性社員がキャリアプランに希望や目標を持てるようにすることです。 チームの活動は3年を1区切りとして、今は第3シーズンまで進んでいます。

▽**第1シーズン**　参加した女性社員同士のコミュニケーションから活動を進め、当社の現状と課題や問題を出し合って話し合うことをメインにしました。その結果、職場環境の一部を改善できました。例えば、妊婦の方は和式トイレでは辛いので洋式に改修しました。また、女性社員が産休・育休を取得しても安心して復職できるよう、制度内容をわかりやすく伝えるガイドブックも作成しました。さらに(名称を変更しないといけませんが)ママカフェを開催し、復職後、家庭と仕事の両立の悩みを先輩ママ・パパから気軽に聞けるようにしました。

▽**第2シーズン**　男性社員にもメンバーとして参加してもらい、女性が働いている職場で、働きづらい職場環境の特定と改善の提案、改善活動をしました。一例でいうと、バネを加工するエキセンプレス機が重たく、作業する際に、男性に移動してもらわなければならなかったのを、昇降式の台車を購入することで、女性の力でも移動する事が出来るようになりました。また、製品等重たい荷物をキャスターで移動する際、出入り口に段差があるため、引っかかって倒しそうになる事があり、不安でしたが、スロープを付けて、段差をなくすことで安心して荷物の移動が出来るよう環境改善を行いました。また、産休・育休取得時の不安を共有するため、社内報に育休から復帰された方のインタビュー記事を掲載しています。

▽**第3シーズン**　さらなる課題抽出に取り組んでいます。新しく外部研修への参加ということで、京都工業会の研修会にメンバーみんなで順番に参加したいと思っています。

現場社員から一言

職場の良い点、気に入っている点

西村さん　私の所属グループは、一人ひとり担当する製品が異なりますが、それでも隣の人や先輩に気軽に質問できる雰囲気がありとても相談しやすいです。忙しいときでも、朝礼と昼礼、3時の休憩後にみんなで集まって進捗状況などを順番に報告し、残業する人がいれば遅れている理由や現状を聞き、リーダーが残業時間をしっかり把握して、他のメンバーでカバーできるか話し合い、互いにフォローし合っていこうという環境です。不良品が出た時などもリーダーがちゃんとフォローしてくれます。また、私には子供がいるのですが、その用事で「休みたいです」と言うと、快く了承してもらえます。私のチームで女性は2人だけなのですが、男性の皆さんも子育ての状況を理解し快諾してくれる雰囲気があり、すごくいい感じです。

私は作る作業がすごく好きなのでこの会社で働くことがとても楽しいです。これからもっと成長して、色々なものが作れたらいいなって思います。

インタビューにご協力いただいたマルホ発條工業株式会社の皆様、誠にありがとうございました。

京都高等技術・経営学院「第43回電子システム研究科」「第40回メカトロニクス研究科」開講

6/30

6月30日、理論に基づく応用力の強化、先端電子技術を修得する第43回電子システム研究科（14名）と、機械と電子の接点を理解・習得する第40回メカトロニクス研究科（14名）の合同開講式を挙行した。

今日の激しい技術革新に対応する技術人材の育成が企業の持続的発展に向けて何よりも求められている。

幅が広く、力量のある、そして実践的対応力のある人材育成をはかることを目的に、京都府の支援と在洛の大学と産業界の協力を得て来年２月下旬まで行われる長期研修として定着し、京都のモノづくりを支える人材を数多く輩出している。

当日は、松下芳弘京都高等技術・経営学院長（本会副会長）の式辞、そして京都府中小企業技術センター所長　坂之上 悦典 氏からお祝いと激励の言葉がおくられ、長期研修のスタートを切った。

K.I.G

ゴルフ同好会（KIG）だより

▶令和５年度第１回例会（第241回例会）結果

と　き：令和５年６月２１日(水)

ところ：琵琶湖カントリー倶楽部

参加者：31名（内 シニア10名）

優　勝　山分　芳造氏（山分物産㈱）

準優勝　勝野　正己氏（㈱エスジーエー）

３　位　坂根　順一氏（大和ハウス工業㈱）

ＢＧ賞　井畑　　忠氏（㈱清弘エンジニアリング）

叙勲・褒章の栄

本年度の春の叙勲・褒章が発令され、本会関係では次の３氏がその栄に輝かれました。
会員の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。

旭日重光章御受章

中本　晃氏

（㈱島津製作所　相談役）

瑞宝中綬章御受章

古山正雄氏

（京都工芸繊維大学　元学長）

藍綬褒章御受章

森田晴夫氏

（㈱モリタ製作所　会長）

訃報

澤田　正昭氏

（㈱松風　元会長）

（平成8年5月～平成13年5月まで　本会理事）

6月13日、ご逝去されました。（享年92歳）

■**由良源太郎氏**（日東精工㈱　元会長）
5月12日、ご逝去されました。（享年92歳）

■**奥田忠男氏**（㈱ケイテイエフ　会長）
6月6日、ご逝去されました。（満74歳）

■**二九良三氏**（二九精密機械工業㈱　社長）
6月16日、ご逝去されました。（享年66歳）

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

新入会員ご紹介

（5月19日、第339回理事会で承認されました。）

正会員

㈱カネミツ

代表取締役　金光幸男

〒611-0041　宇治市槇島町二十四46
TEL.0774-25-6222　FAX.0774-25-6221

金属加工業
（精密フレーム・精密板金・レーザー加工・各種溶接）

司法書士法人ゆずりは後見センター

代表社員　川原田慶太

〒541-0054　大阪市中央区南本町1-2-6
TEL.06-6261-1018　FAX.06-6261-1019

司法書士業のうち、主に成年後見業務

京都工業会ニュース No.415
発行　2023年7月25日
公益社団法人 京都工業会

〒600-8009　京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター 6階
TEL.075(353)0061　FAX.075(353)0065
URL：http://www.kyokogyo.or.jp
E-mail：info@kyokogyo.or.jp